

日本哲学会

一九五一年度春季哲学大会

個人研究発表（五月二十七日午前）

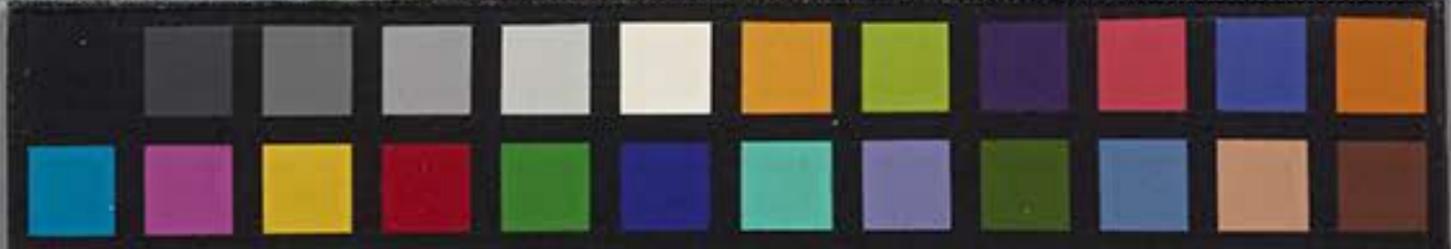
カントにおける範疇の導出法について

愛知学芸大学助教授

上山春平

（二〇〇一年一月二十六日整理）

カント全集月報寄稿を期に



提案

カントの範疇導出法を、彼の反省概念論の角度から、把握しなおすことができたのではないか。

(註) 反省概念とは、曰純粹理性批判

凸の分析論の後に、附録として

のせられていた「反省概念の多

義性について」という部分であ

りません。従来、あまり顧られ

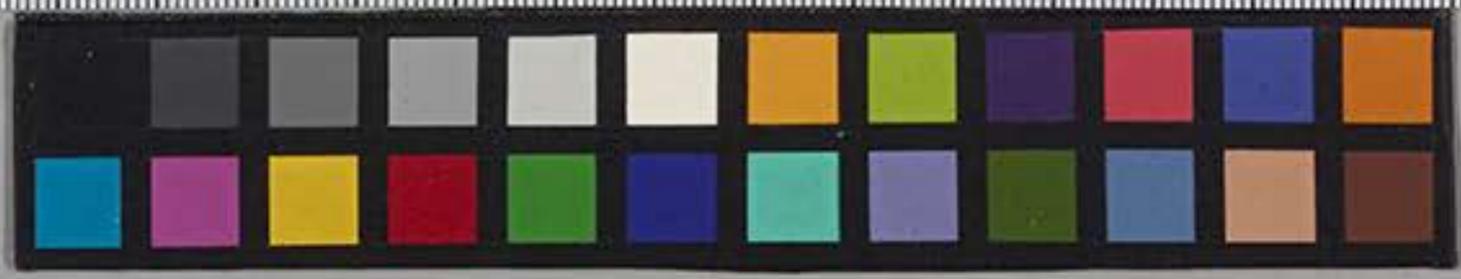
いていないように思われますので、



論(分析論)の附録として反省概念に關
 する論攻を附加している。これは、直観
 Anschauung と悟性 Verstand もしくは存在
 Sein と概念 Begriff の間に横たわる領域で
 ある。レガロツクナ一版へ「ケル全集
 只、ヘーゲルの見解
 「カントは、先驗的論理学もしくは悟性
 ライプニツ哲学に關する批判
 一、一般の見解
 (一) 反省概念論に關する諸見解

コウヨ ケ-30 20X10

Kyoto University



Bd. 5, 5.18)

(註)

カント

(直観論)

(悟性論)

感性論

悟性論

反省論

ヘーゲル

存在論

概念論

本質論

ハ、私の見解

① 反省概念論のハイメは先驗的反省。

② 単なるライプニッツの批判と見るのはま

③ 反省を感性と悟性、存在と概念の中間
ヘーゲルが
ちがいの。

に位置づけ子ののに対して、カントは感



④ 理性批判は先験的反省の行便であり、
 と悟性を反省の対象とみる。
 感性論や悟性論は反省のノエマ面、反
 省論はノエシエ面を構成する。



(二) 反省概念論と先験的位置論

① 「反省」とは何か

与えられた諸表象と

その種々な認識能力

との関係の意識

この意識の上でのみ

諸表象の相互の関係は

正しく限定される。(B. 316)

コクヨ 4-30 20X10

Kyoto University



② 「反省概念」とは何か。

諸概念（諸表象）が、

一つの心性の形態において相互に

うる関係

同一性と差異性、一致と矛盾、内的な

のと外的なもの、限定するはたうきへ形

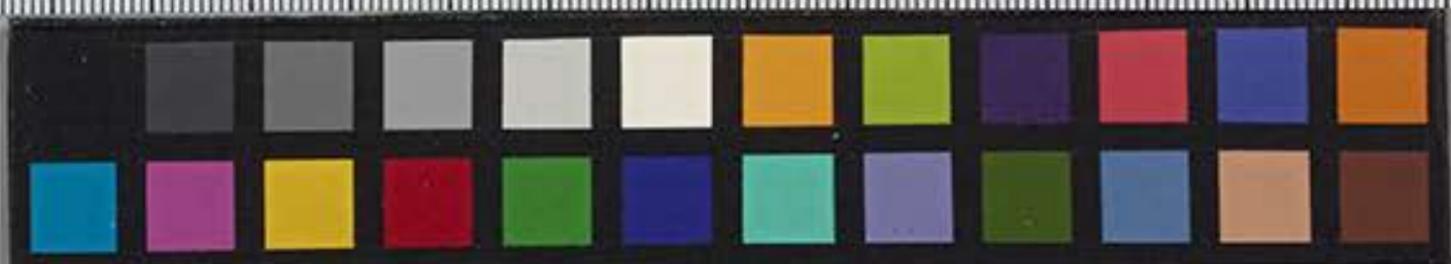
式と限定されるもの（質料）

こうした関係は、諸概念（諸表象）が、

感性と悟性のどちらの認識能力において、

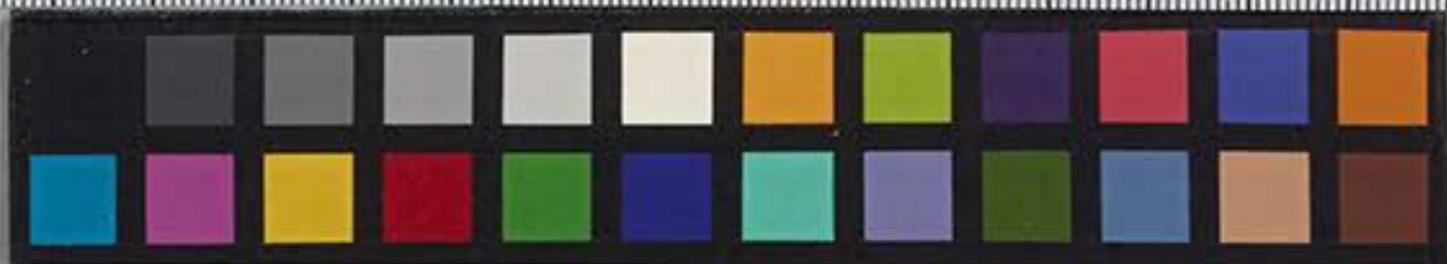
主観的に相関するかにともづいて、

正しく規定される。（B.317）



③ 1 先験的位置論とは何か。
 概念の論理的形式ではなくて、
 題となるばあい、すなわち物そのものが
 同じであるが異つているか、一致してい
 るか矛盾しているか、等々であることが
 問題であるばあいは、物は、われわれ
 の認識能力、すなわち感性和悟性には、い
 くて二重の関係をもち、ことが、
 して、物と物とが如何なる相互関係を結
 んだかといふ仕方は、それらの物の屈

コクヨ ケー30 20X10



しこころ位置0 (Stelle) によつて定まる。

(B.318)

我々が、一つの概念に、感性もしくは純

粋悟性において与える所の位置 (Stelle) を、

先験的位置 (dar transzendentale Ort) と書く。

けることを許してもういたい。このよう

にして、いづれの概念にも、その用法の

異なるに従つて与えらる所の位置の判定、

そして以ての概念に概念にこゝした位置

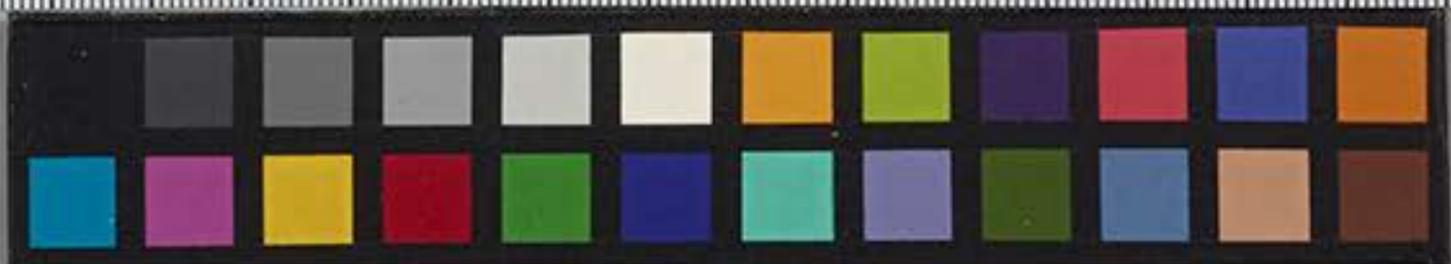
を決定する所の規則的指示は、先験的

位置論 (die transzendentale Topik) と書く (B.324)

成立するた
 めには合致
 性へ、否定
 判断の
 稱成するた
 めには差違
 性へ、肯定
 判断の
 断を下すた
 めには一様
 性へ、特殊
 判断を
 は諸概念へ
 諸表象へを
 比較する、
 全称判
 断
 ③ ありや
 りや中る客
 観的判断に
 先立ち、
 否々
 によつて規
 定される。
 ② 対象認識
 において、
 判断形式は
 反省概念
 ① 範疇は判
 断形式が導
 出される。(B.
 90~107)
 とカテゴリー
 論
 ③ 先験的位
 置論と体系的
 位置論(反省
 概念論)

コクヨ ケー30 20X10

Kyoto University



④ 故に、先験的位置論（反省概念論）は体
 面的位置論（カネゴリ論）に先行し、
 これを基礎づける役割をもつ。

ためには反対性へ等しい、それと到達せ
 んがためである。（B. 317 f.）

